凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第３号（６月号）

ポストコロナの学校生活

校長　椿　智絵

６月を迎え、学校はますます活気付いています。１年生は校外学習、３年生は修学旅行、運動部活動に加入している生徒は学校総合体育大会二市予選会に向けて、それぞれの活動にしっかりと取り組んでいる様子を見ることができます。どの行事等も全部、中学校生活の大切な思い出になるものです。生徒の皆さんには、準備も含めて、充実した時間を過ごしてもらいたと願っています。

さて、新型コロナウイルス感染症が２類から５類に代わり、ポストコロナと言われるようになりました。ポストコロナとは、「コロナがあるようになってしまった時代」のことです。

思えば、コロナ禍にあったときは、臨時休業、分散登校、学年閉鎖、学級閉鎖などの対応がありました。感染リスクが高い学習活動や学校行事、部活動にも多くの制限がありました。始業式や全校集会も全校生徒が体育館に集まることできず（密の回避のため）、もっぱら校長講話もオンラインで行っていました。少しずつ少しずつ制限が緩和されていき、昨年度３月にやっと全校生徒が体育館にそろって３年生を送る会を行うことができました。

そして迎えた令和５年度。全てがコロナ前に戻ったわけではありませんが、この３年間制限があってできなかったことが、少しずつ元に戻った形で行えるようになりました。対面式、生徒総会は、３年生を送る会同様、全校生徒がそろって対面で行うことができました。授業参観も制限なしでの参観になりました。そして冒頭にあげた各学年の行事も順調に進んでいます。運動部の二市大会の応援も声出しが解禁になりました（制限がある種目もありますので顧問とご確認ください）。

生徒が活躍できる場がたくさんあることはとてもうれしいことです。今後もポストコロナにおける学校生活が充実するよう、感染症対策を行いながら、いろいろ工夫していきたいと思います。

令和３年６月の国の教育再生実行会議では、ポストコロナ期における新たな学びの在り方を考えていくに当たって、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング（Well-being）の理念の実現を目指すことが重要であるとの結論に至ったと書いてありました。ウェルビーイングとは、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康も含まれ、このような幸せが実現される社会は、多様性と包摂性のある持続可能な社会でもあります。こうした社会を実現していくためには、一人一人が自分の身近なことから他者のことや社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切です。

特に学校現場においては、昨今急速に進みつつあるデジタル化が、教育の新たな可能性を拓き、ポストコロナ期の新たな学びにおいても効果的な手段となり得ると考えられています。コロナ禍で取り組んだオンライン学習などのデジタル化の流れを後戻りさせないという意識の下、教育活動を適切に進めていくことが期待されており、本校でもＩＣＴ機器を取り入れた授業を積極的に行うなどして取り組んでいるところです。

ポストコロナ社会はコロナ禍以降に様変わりした社会のあり様を示したものです。様々な場面で暮らし方の質が大きく変容し、学校生活も大きく影響を受けましたが、いつ、どんなときも、生徒が充実した学校生活を送ることができるように、学校はその支援をしていきたいと思います。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp